

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	P.P.P.プラットフォーム！児島		
○保護者評価実施期間	R7年1月6日		R7年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32枚	(回答者数) 21枚
○従業者評価実施期間	R7年1月6日		R7年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8枚	(回答者数) 8枚
○事業者向け自己評価表作成日	R7年2月28日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	丁寧な説明や保護者の相談や子育てに寄り添うこと	・分かりやすい言葉で、保護者の思いを否定しないように心掛けている ・LINEを使用して、いつでも相談が出来る環境を整えている	
2	送迎の実施	・お仕事などで直接事業所の送迎が難しい、車を所有していない保護者の方にも療育を提供出来るようにしている ・保育園などに直接送迎をすることが出来るため、園の先生と子どもの様子を共有しやすい	・送迎を利用される保護者の方と直接コミュニケーションをとる機会が少ない為、電話やLINEなどで積極的にコミュニケーションをとってきたい
3	固定化されていない活動プログラムを提供していること	・保護者の方からの意見や子どもの様子、状況に合わせて毎年活動内容の見直しを行っている	・子ども「○○したい」等の意見にもしっかりと耳を傾けながら、事業所に来る楽しみになっていけるように活動をチームで考えていきたい

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	非常時の対応や避難訓練の実施について	・地震/火災/水害など訓練は実施しているが、○曜日の午後など不定期に開催しているが、利用日ではない時に実施した場合、参加した旨を伝えられていない状況がある	・大きな地震や災害があると近年言われている為、非常時の時にどのような対応とるのかを明確にし、保護者の方にも知らせたり、職員間でも万が一に備えていきたい ・避難訓練を実施した際には、「今日○○をしました」としっかりと情報発信をしていきたい
2	部屋の状況が分からない	・見学時に施設内を説明するが、以降は中に入る機会が少なく、懇談などがあるが参観よりは面談がメインとなっていることが多い	・懇談時に子どもの様子を見てもらう参観などが出来る旨を職員から伝えていきたい ・事業所に迎えに来て下さる保護者の方にも気軽に見学などが出来る旨や少し早めに来ていただき様子を見れる場の提供などをしていきたい
3	障害特性を踏まえ、家庭で具体的にどの様に支援、対応すればよいのか分かり難い	・お子さんの困り感について一緒に考えたり、「○○してみたらどうですか？」と提案する事はあるが、それがどう障害特性なのかを伝えきれていない所や家庭で何をすれば良いかを伝えきれていない所がある	・職員が障がい特性について学ぶ機会をつくる ・家庭で出来ることを保護者の方に分かりやすく障害特性についてお伝えしながら伝えていきたい

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		P.P.P. プラットフォーム！児島		公表日		R7年3月14日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	1	・パーティションで区切りエリアを設定するなど子どもの様子を見ながら日々思案中			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		・子どもの人数やメンバーにより、遊びや活動を対応する職員の人数を変えている			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	4	・壁の装飾を減らし、職員に注目出来るように工夫している	・スペースや備品が足りず、環境が整っていないと感じる	・2階にあがる為の階段がある	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	1	・手隙時に掃除、朝/昼/夕で3回消毒実施			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8					
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8		・活動後に子どもの様子を共有したり、会議を行っている			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		・昨年連絡が取り難い、連絡帳だけでは分からない等の意見を聞き、LINEを開設			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	1				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	2				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		・月1回外部講師を招き、職員の質向上に繋げている			
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8					
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8					
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8					
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8					
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	1				
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8					
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8					
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8					

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	2	・業務予定表で分担している ・行事の打ち合わせはしている ・指導案を作成し、共有している	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	3	・送迎等があり難しい為、日報に記載	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		・連絡帳に活動内容を記載し、パソコンにも記録を残している	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		・担当職員が参加している	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	1		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8		・園訪問に行き、倉敷市からの情報共有シートを記載している	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8			
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	7	1		
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	2	6	・保育園などに在籍している為、事業所の活動として設けていないが、園生活の上での他児との関わりについて把握する様になっている	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8		・保護者送迎の場合は直接コミュニケーションをとる機会も多い	・送迎車を利用する保護者と直接話をする機会が少ないので、電話やLINEを使いながら、積極的コミュニケーションをとってきたい
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8				
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	2	6		・保護者ニーズの記載はあるが、子ども自身に思いの確認が出来ていない為、頑張りたいことを聞いたり、目標を分かりやすく伝えていきたい
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8			

保護者への説明等	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	2		
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7	1	・LINEで写真を送ったり、様子を伝えている ・行事は年間予定と行事前に案内を配布	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	2		
	非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8		
46		業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8			
47		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8			
48		食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8			
49		安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8			
50		こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8			
51		ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8			
52		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8			
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	8				

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

公表：令和7年3月14日

事業所名P.P.P. プラットフォーム！児島

保護者等数（児童数）32名

回収数21枚

割合65%

	チェック項目	はい	ご意見			ご意見を踏まえた対応
			どちらともいえない	いいえ	わからない	
環境・体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	17			4	・中に入らない為、分からない ・懇談に来られた際に、子どもの様子を参観出来るので、是非お声掛け下さい。こちらからも積極的にご案内しますね。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	12		1	8	・人数が足りなくて振替が出来ないことがある ・中に入らない為、分からない ・職員が足りなくて…というよりは、1日定員10名の決まりの中や送迎が難しく振替が出来ていない状況となっています。ご説明不足ですみません。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境*1になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	12	1		8	・中に入らない為、分からない
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	12	1		8	・食堂に入った時に少し清潔感がなかった様に感じた ・中に入らない為、分からない
適切な支援の提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画*2が作成されているか	19			2	
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	18			3	
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	16	1		4	
	8 活動プログラム*3が固定化しないよう工夫されているか	19			2	

	9	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	14		1	6	・交流している話は聞いたことがない	・保育園等に通われている為、事業所の活動として交流会は未実施です。
保護者への説明等	10	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	21					
	11	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明がなされたか	19	1		1		
	12	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング*4等）が行われているか	17	1	1	2	・連絡帳に記載した事には答えてくれるが、わざわざトレーニングされた事はない	
	13	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	18	3			・連絡帳でしっかり出来ている	
	14	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	18	2		1	・半年ごとの間隔より、もっと短めに面談をして欲しい	・来所や電話、LINEなどいつでもご連絡下さい。
	15	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	10	4		7	・保護者会があることは知っているが、参加したことがない ・時々開催されている	・毎年実施していますので、機会があれば是非。また開催後に状況なども報告出来れば…と思っています。
	16	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	18	2		1	・LINEや連絡帳で伝えてもらっている	
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	20	1			・連絡帳で出来ている	
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	17	1		3		
	19	個人情報の取り扱いに十分注意されているか	19			2		
非常時等の対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか。	10	2		9	・避難訓練をしているか知らない	・年間で地震/火災/水害を〇曜日の午後など不定期に開催している為、利用日ではない時であれば、参加した旨を伝えられていない状況があります。
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	10	1		10	・避難訓練をしているか知らない	

満足度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	15	6		<ul style="list-style-type: none"> ・いつも楽しかったと帰って来る ・楽しみな日もあれば、楽しみじゃない日もあるから ・はりきっている 	
	23	事業所の支援に満足しているか	18	3		<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳で細かく教えてもらえるので、安心して通わせている ・相談にのってもらい、子どもの事を考えてもらっていると感じる 	

*1 この部屋で何をするのかを示せるように、机や本棚の配置など、子ども本人にわかりやすくすることです。

*2 児童発達支援を利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のことです。これは、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の児童発達支援管理責任者が作成します。

*3 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のことです。子どもの障がい特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されています。

*4 保護者が子どもの行動を観察して障がいの特性を理解したり、障がいの特性を踏まえた褒め方等を学ぶことで、子どもが適切な行動を獲得することを目標としています。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	P.P.P.プラットフォーム！児島		
○保護者評価実施期間	R6年12月21日		R7年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16枚	(回答者数) 13枚
○従業者評価実施期間	R7年1月6日		R7年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7枚	(回答者数) 7枚
○事業者向け自己評価表作成日	R7年2月28日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	丁寧な説明や保護者の相談や子育てに寄り添うこと	<ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすい言葉で、保護者の思いを否定しないように心掛けている ・LINEを使用して、いつでも相談が出来る環境を整えている 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業した保護者の方ともLINEを繋げて、今後も情報提供や困り感に寄り添っていただける仕組みを考えている
2	固定化されていない活動プログラムを提供していること	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの様子やニーズから活動の見直しを行っている ・土曜日に行っている為、時間に縛られずに全体で活動が出来る(クッキング、買い物、公共交通機関の利用など) ・敷地内のグラウンドを活用して、運動教室や運動活動を提供している 	<ul style="list-style-type: none"> ・日直やお手伝い、リーダーをした時にポイントが貯まるシステム。ポイントによって景品が貰えたり、色々な効果があるが、更に来所のモチベーションに繋がる様にシステムの見直しを行っていきたい
3	子ども自身と面談を行い、目標を決めている	<ul style="list-style-type: none"> ・支援プランを作成する際に、保護者のニーズを聞くと共に子ども自身とも面談を行い、目標の振り返りや次の目標の設定をし、子どもの「頑張りたい」を応援する様にしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と基本LINEを繋げているが、子どもの年齢等に応じて、子ども自身が相談したいことがあれば相談出来る仕組みを考えていきたい

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	子ども達が楽しみをもち来る事	<ul style="list-style-type: none"> ・利用回数が少ない ・土曜日に実施している為、中学年になって来ると家や友達と過ごしたいお子さんが多くなってくる 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達の「〇〇したい」を面談などで聞き取り、活動に繋げていくこと ・ポイント制度を使い、楽しみをもち利用出来るようにしていくこと
2	小学校との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・土曜日利用の為、先生と話す機会が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・懇談前など新しいプランを作成する際に、小学校へ電話連絡を取り、学校の様子を聞く様にしている ・相談支援員さんに担当者会議の開催を依頼し、学校の先生と顔合わせをして、方向性を揃えていく
3	障害特性を踏まえ、家庭で具体的にどの様に支援、対応すればよいのか分かり難い(卒業目処について)	<ul style="list-style-type: none"> ・お子さんの困り感について一緒に考えたり、「〇〇してみたらどうですか?」と提案することはあるが、それがどう障害特性なのかを伝えきれていない所や家庭で何をすれば良いかを伝えきれていない所がある ・ペアレントトレーニングなどを開催するが、兄弟児の託児などが出来ないこともあり、参加され難い 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が障がい特性について学ぶ機会をつくる ・家庭で出来ることを保護者の方に分かりやすく障害特性についてお伝えしながら伝えていきたい ・ただ小学校6年生まで利用するのではなく、卒業を意識しながら保護者と面談を行っていく

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		P.P.P.プラットフォーム！児島		公表日		R7年3月14日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	1	・児童棟だけでは手狭に感じる為、成人閉所日には本館を使用したり、活動内容に合わせて部屋使い分けしている		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	3		・2階に行くための階段などがある為、今後リフォームなどを行う際には必要に応じて検討していきたい	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		・他児と同じ空間に居ることが苦しい時など本人からの申し出や職員からの促しで、別室で過ごせる様にしている		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		・職員会議を行い、次年度につなげている		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	3		・外部評価を実施していない	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		・月1で外部講師を招き、職員の質向上に繋げている		
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7		・こどもと面談を行い、頑張りたいことや伸ばしたいことなど、本人が決めた目標をサービス計画書に入れるようにしている		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7				
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	1		・標準化されたアセスメントツールの使用を検討していきたい	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7				

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	5	2	・かがやき手帳を書く会、ペアレントトレーニングなどを実施し、保護者同士が関わる場面がある	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7			
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	2		・土曜日にも避難訓練を計画中
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7			
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7				

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

公表: 令和 7年 3月 14日

事業所名 P.P.P.プラットフォーム！児島

保護者等数(児童数) 16名 回収数13名 割合 81%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	11	1		1	
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	11	1		1	
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	9	1	1	2	
適切な支援の提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	13				
	5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	12	1			
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	5	3		5	・地域の小学校に通われているお子さんも多い為、事業所の活動としては未実施だが、障がいのないお子さんとの関わりについては情報把握していきたい
保護者への説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	12	1			
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	12	1			
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	13				
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	7	3		3	・かがやき手帳を書く会やペアレントトレーニングの中で保護者同士が関わる機会を提供しているのは是非ご参加下さい
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	10	1		2	
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	12			1	
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	11	2			
14 個人情報に十分注意しているか	10	1		2		
非常時	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	7	3		3	

等 の 対 応	16	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、 その他必要な訓練が行われているか	8	1	4	・火災/水害/地震の避難訓練を実施していますが、 成人と合同で開催している為、平日に開催している ことが多いです。土曜日も実施出来るように検討して いきたいと思ひます
満 足 度	17	子どもは通所を楽しみにしているか	9	4		意見:行けば楽しく過ごすことが出来ている ⇒楽しみをもち来所出来るように今後も 考えていきたいと思ひます
	18	事業所の支援に満足しているか	12		1	

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のことで、放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成します。

*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のことで、子どもの障がい特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されています。